

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年11月28日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
11月29日（火） 13：30～16：35	オンライン開催	公開シンポジウム 『連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた 農芸化学の挑戦」第4回植物科学からサステイ ナブルな農業生産・ものづくりへ』
12月2日（金） 8：30～9：45	パシフィコ横浜	公開シンポジウム 「品質保証と創薬研究」
12月3日（土） 13：00～16：50	オンライン開催	公開シンポジウム 「持続的な食料保障に向けた植物保護の新技 術」
12月4日（日） 13：30～16：45	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	公開シンポジウム 「人口減少時代の地域のかたち」
12月5日（月） 10：00～17：35	オンライン開催	公開シンポジウム 「第12回計算力学シンポジウム」
12月9日（金） 13：00～16：00	オンライン開催	中部地区会議学術講演会 『三重の海の多様性から広がる学術研究』
12月10日（土） 13：15～15：15	東京国際フォー ラム ホールC	共同主催国際会議市民公開講座 「人生100年時代に向けた栄養学からの提案： フレイル予防と腸内細菌への注目」
12月10日（土） 13：30～16：00	京都大学時計台 百周年記念館 百周年記念ホー ル（ハイブリッ ド開催）	共同主催国際会議市民公開講座 「未来の農業を考える」
12月10日（土） 13：30～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「今、なぜ「国家」が問われるのか？」
12月10日（土） 14：00～17：00	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	学術フォーラム 「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究 ウクライナ危機に多角的に迫る」
12月11日（日） 13：00～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「持続的な畜産経営を目指したスマート技術 と今後の展望」

12月11日（日） 13：00～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「文化財保護に未来はあるかー日本の文化財のこれからを考えるー」
12月12日（月） 18：00～20：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「あらためて高大接続を考えるー有識者との議論を通じてー」
12月18日（日） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「地名標準化の現状と課題：地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて」
12月23日（金） 13：00～16：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の課題」
1月13日（金） 13：00～17：00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム「新興・再興感染症の克服に挑む ～COVID-19 との闘いを経て～」

※新型コロナウイルス等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

連続公開シンポジウム

SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦

第4回 植物科学から持続可能な農業生産・ものづくりへ

2022年 11月29日(火)



参加費無料

事前参加申込制

ウェブ開催 どなたでも参加できます。
<https://forms.gle/uHLfnhb9WDmxSXwY7>

13:00~13:20

開会の辞: 倉田 のり

(日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所名誉教授)

来賓挨拶: 松山 旭

(日本農芸化学会会長、キッコーマン株式会社取締役常務執行役員)

趣旨説明: 村中 俊哉

(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授)

13:20~13:50

「作物と微生物叢を同時改良するホログenom選抜法の開発」

岩田 洋佳 (東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

座長: 丸山 明子 (日本学術会議連携会員、九州大学農学研究院准教授)

13:50~14:20

「作物頑健性に寄与する根圏ケミカルワールドの機能」

杉山 暁史 (京大大学生存圏研究所准教授)

座長: 森田 (寺尾) 美代 (日本学術会議連携会員、自然科学研究機構基礎生物学研究所教授)

14:20~14:50

「木質バイオマス生合成の分子的理解とその応用に向けて」

大谷 美沙都 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)

座長: 佐藤 豊 (日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授)

15:00~15:30

「植物ホルモン生合成・シグナル伝達の理解からバイオマス生産向上へ」

榎原 均 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

座長: 稲葉 靖子 (日本学術会議連携会員、宮崎大学准教授)

15:30~16:00

「ゲノム編集で新しい植物を創る・新しいものを造る」

刑部 祐里子 (東京工業大学生命理工学院教授)

座長: 三村 徹郎 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任研究員)

16:00~16:30

パネルディスカッション

「植物研究は、SDGs達成にどのように貢献するか」

16:30~16:35

閉会挨拶: 山崎 真巳 (日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院薬学研究院教授)

後援:

日本農芸化学会

日本植物生理学会

日本植物バイオテクノロジー学会

日本生物工学会

日本育種学会

日本土壌肥料学会

大阪大学大学院工学研究科

お問い合わせ:

日本学術会議農芸化学分科会シンポジウム事務局

amaru@agr.kyushu-u.ac.jp

品質保証と創薬研究

報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」をふまえて、創薬研究に関わる薬理系領域における品質保証の重要性と、これらの分野で貢献できる人材の育成について多角的に議論します。

日時：令和4年12月2日 8:30-9:45

第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会（JPW2022）

場所：パシフィコ横浜

座長

- 合田 幸広 （日本学術会議連携会員、
国立医薬品食品衛生研究所 所長）
- 関野 祐子 （日本学術会議連携会員、
NPO法人イノベーション創薬研究所 理事長）

シンポジスト * 主催分科会委員

- 合田 幸広* （国立医薬品食品衛生研究所）
- 黒川 洵子* （静岡県立大学薬学部）
- 吉永 貴志 （エーザイ株式会社）
- 堤 康央* （大阪大学大学院薬学系研究科）

申し込みフォームはこちら

お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をお知らせいたします。お問い合わせは、
kendaibip@u-shizuoka-ken.ac.jpまでお願いいたします。



PROGRAM

開催趣旨：薬学における創薬研究のベースには、医療の再現性を保証するための品質保証があります。ですので、社会のニーズに合致した革新的な医薬品を創出するためにも、薬学の根幹にあるモノの品質保証の考え方が重要です。第24期日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会では、2019年6月～9月に、全国薬学部を対象にアンケート調査「食品・医薬品の品質保証に関する薬学教育の実態調査」を実施しました。その結果、モノの品質保証を担当する分野は、薬理学をも包含する広義の医療系薬学分野であることが明らかになりましたが、現在の薬学教育では「品質の定義」や「品質保証」、「CMC」等に対する教育が十分ではない傾向が見られました。このような背景から、日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会では、報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」を発出しました。このシンポジウムでは、本報告をふまえて、創薬研究に関わる薬理系領域における品質保証の重要性と、これらの分野で貢献できる人材の育成について多角的に議論することを目的とします。

座長

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所 所長）

関野 祐子（日本学術会議連携会員、NPO法人イノベーション創薬研究所 理事長）

趣旨説明

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所）

講演（敬称略）

1. 報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」について

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所）

2. 品質保証と薬理学教育

黒川 洵子（日本学術会議連携会員、静岡県立大学薬学部）

3. 品質保証と創薬開発

吉永 貴志（エーザイ株式会社、高度バイオシグナル安全性評価部部長）

4. アカデミアにおけるRS人材の育成 ～大阪大学を例に～

堤 康央（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学系研究科）

総合討論 司会

関野 祐子（日本学術会議連携会員、NPO法人イノベーション創薬研究所 理事長）

※CMCとは: 医薬品の品質保証を統合的に考える概念で、chemistry, manufacturing and controlの略。、医薬品の設計から製造プロセス、品質評価まで含めて、その情報およびそれらに関連する領域の総称)

※RSとは: 科学技術の進歩によって生み出されたものを、真に人間の利益にかなうよう調整するためのサイエンス。regulatory scienceの略。

日本学術会議公開シンポジウム

持続的な食料保障に向けた 植物保護の新技术

令和4年**12月3日(土)**

13:00~16:50

Zoomによるオンライン配信

参加 無料(事前申込制)

事前参加申し込み締切: 11月26日(土)

メールで下記申し込み先までお申し込みください
ZoomのURLをお知らせいたします

主 催

日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会
日本植物保護科学連合（日本植物病理学会、
日本応用動物昆虫学会、日本農薬学会、
日本雑草学会、植物化学調節学会）

13:00~13:10 **開会挨拶**

松本 宏 日本学術会議第二部会員・植物保護科学分科会委員長

13:10~13:45 **内生微生物を活用した「プロバイオティクス農業」**

秋本 千春 農研機構生物機能利用研究部門グループ長補佐
座長: 宮田 伸一 農研機構植物防疫研究部門行政連携調整役

13:45~14:20 **クオラムセンシングの制御による植物病害防除を目指して**

甲斐 建次 大阪公立大学大学院農学研究科准教授
座長: 松田 一彦 近畿大学農学部応用生命化学科教授

14:20~14:55 **青色光の殺虫効果を利用した害虫駆除技術の開発とその展望**

堀 雅敏 東北大学大学院農学研究科教授
座長: 徳田 誠 佐賀大学農学部准教授

14:55~15:10 (休憩)

15:10~15:45 **植物免疫プライミングの調節機構と活用への展望**

仲下 英雄 福井県立大学生物資源学部教授
座長: 岡田 憲典 東京大学農学生命科学研究科准教授

15:45~16:20 **ポスト情報社会の持続的雑草管理に向けた技術的、社会的展望**

浅井 元朗 農研機構植物防疫研究部門グループ長補佐
座長: 水口 亜樹 日本学術会議連携会員・福井県立大学生物資源学部准教授

16:20~16:50 **総合討論**

渡辺 京子 日本学術会議連携会員・玉川大学農学部教授

申し込みおよび問い合わせ先: 松本 宏 E-mail: hmatsu@biol.tsukuba.ac.jp



人口減少時代の 地域のかたち

日時

2022.12.4日 13:30-16:45

会場

日本学術会議 講堂 対面
オンライン 併用

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

【アクセス】東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口より徒歩1分

参加費
無料

人口減少は世界の先進国共通の課題です。日本も例外ではありませんが、その発現の仕方は地域によって大きく異なります。過疎地域や限界集落といった用語が一般化したように、従来は農山村や地方都市といった文脈で人口減少が取り上げられることが多かったのですが、東京をはじめとする大都市圏においても人口減少が社会や経済に小さくない影響を及ぼしています。こうした地域的問題を考察し、今後の地域社会・経済の行く末を展望する学問分野として「地域学」が注目されています。そこで本シンポジウムでは地域学の視点から人口減少時代における地域の多様なかたちについて、幅広い市民・国民の皆様と議論を深めます。



事前参加申込制 (どなたでもご参加いただけます)

参加申込方法

参加をご希望の方は、11月28日(月)までに下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いします(対面・オンラインとも)。なお本シンポジウムは対面を基本とします。オンライン併用は、遠方からの参加者のため補助的手段にすぎないことを予めご了解ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfPGRqM_veJPCwVculb-Ud0Jcdp-gOVbr7FH_Ydt2YWIB39VgA/viewform?usp=pp_url



〈司会〉小林 知(学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所教授)

開会あいさつ

小長谷有紀(学術会議会員、独立行政法人日本学術振興会監事)

招待講演

少子化・人口減少にむかう国家と地域
——地域学の視点から

山下祐介(学術会議連携会員、東京都立大学人文社会学部教授)

百年まちづくり企業の住み続けられる地域のつくり方
東浦亮典(東急株式会社常務執行役員)

分科会報告

人口減少下の「選択される地域」
——「企業の地域学」の展開をめぐる

佐無田光(学術会議特任連携会員、金沢大学人間社会研究域経済学経営学系教授)

多文化教育と地域学

池口明子(学術会議連携会員、横浜国立大学教育学部准教授)

人口減少時代における地域学の学び

井口 梓(学術会議連携会員、愛媛大学社会共創学部准教授)

総合討論

コーディネーター: 田原裕子(学術会議連携会員、國學院大学経済学部教授)

開会あいさつ

宮町良広(学術会議連携会員、大分大学経済学部教授)

日本学術会議 第12回 計算力学シンポジウム

主 催

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共 催

可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

後援 自動車技術会

開催趣旨 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果をまとめて聞くことができる貴重な機会です。また、昨今の深層学習の隆盛を念頭に、**計算力学と機械学習・深層学習の融合に関する最近の話題**と題した特別企画を開催し、第一線でご活躍中の研究者による講演と討論を行います。

日 時： 令和4年12月5日（月）10:00～17:30

会 場： オンライン [webinar](#) ※日本学術会議2階大会議室より配信いたします。
一般参加者はオンライン参加のみとなります。

申 込： 事前申込不要（上記リンクより直接ご参加ください）

参加費： 無料 問合せ先： tsuchiya@grips.ac.jp (政策研究大学院大学 土谷 隆)

次 第

各講演時間には5～10分の各学会長による講演者紹介と質疑応答を含みます

総合司会：土谷 隆（政策研究大学院大学政策研究科 教授）

10:00-10:10 開会の辞：

吉村 忍（日本学術会議第三部部長、東京大学副学長、大学院工学系研究科システム創成学専攻 教授）

第I部 若手研究者による講演

10:10-10:30 講演1（日本計算力学連合）

桑田 祐丞（大阪公立大学大学院工学研究科機械工学分野 准教授）

「格子ボルツマン法を用いた複雑壁面に接する乱流熱流動の数値解析」

10:30-10:50 講演2（日本応用数理学会）

池 祐一（東京大学大学院情報理工学系研究科附属情報理工学教育研究センター 助教）

「位相的データ解析とトポロジ的損失関数の最適化」

10:50-11:10 講演3（日本計算工学会）

西尾 真由子（筑波大学システム情報系 准教授）

「既存インフラ構造物のデータ同化性能解析と機械学習による効率化」

11:10-11:30 講演4（CAE懇話会）

小塚 祐也（（株）アシックス・スポーツ工学研究所 主任研究員）

「代理モデルとアルゴリズムミックデザインを用いたランニングシューズの設計と商品化」

11:30-11:50 講演5（日本機械学会計算力学部門・アジア太平洋計算力学連合）

村松真由（慶應義塾大学理工学部機械工学科 准教授）

「先端情報技術と固体力学とを融合させる試み」

11:50-13:00 昼休み

13:00-13:20 講演6（日本計算数理工学会）

藤井 雅留太（信州大学工学部機械システム工学科 准教授）

「トポロジー最適化によるロケーションカムフラージュ」

13:20-13:40 講演7（可視化情報学会）

新藤 康弘（東洋大学理工学部機械工学科 准教授）

「マイクロ波温熱治療装置周辺の漏洩電界の可視化と非侵襲生体内温度分布推定」

13:40-14:00 講演8（日本シミュレーション学会）

山口太一（福井県工業技術センター 研究員）

「並列有限要素法を用いた複合材料の界面損傷進展解析」

14:00-14:10 休憩

第II部 特別企画「計算力学と機械学習・深層学習の融合に関する最近の話題」

オーガナイザー 平野 徹（日本学術会議特任連携会員、ダイキン情報システム（株）シニアスキルスペシャリスト）

14:10-14:50 特別講演1

坂田綾香（統計数理研究所数理・推論研究系 准教授）

「統計的機械学習における近似計算アルゴリズムとその理論」

14:50-15:30 特別講演2

深淵康二（慶應義塾大学理工学部機械工学科 教授）

「流体力学と深層学習の融合：機械学習縮約モデルを用いた革新的流れ制御に向けて」

15:35-16:15 特別講演3

橋本幸士（京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 教授）

「学習物理学：深層学習と物理学の融合と時空解釈」

16:20-17:30 総合討論

パネリスト 大出真知子（物質材料研究機構 主任研究員）、第II部特別講演者3名、村松真由（慶應義塾大学 准教授）

17:30-17:35 閉会の辞

平野 徹（日本学術会議特任連携会員、ダイキン情報システム（株））

三重の海の多様性から 拡がる学術研究

海に囲まれた海洋国日本のなかでも、古くから海との関わりが深い三重。穏やかな内海の伊勢湾、リアス式海岸の志摩半島、そして黒潮の影響を強く受ける熊野灘と続く海岸線は、多種多様な海洋資源に恵まれています。三重大学では、この豊かな三重の海をフィールドにした様々な研究を行ってきました。本講演会では、志摩漁村の海藻漁の展開がもたらした近代東アジアの海藻流通構造の転換に関する研究、そして、異なる海洋環境をもつ2つの海に生息する鯨類の生態研究について紹介します。

令和
4年 **12月9日(金)**
13:00▶16:00

**参加費
無料**

どなたでも
参加できます

13:00▶13:10

開会挨拶 三重大学学長 **伊藤 正明**

13:10▶13:20

日本学術会議副会長挨拶 日本学術会議副会長 **高村 ゆかり**

13:20▶13:30

主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 **池田 素子**
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

13:30▶13:40

科学者との懇談会活動報告 中部地区科学者懇談会幹事長 **松田 正久**

13:40▶15:55

近代東アジアの海藻文化
～志摩漁村から描くグローバルヒストリー～

学術講演会

三重大学人文学部教授 **塚本 明**

鯨類の生態の謎を解き明かす
～伊勢湾と熊野灘の多様なクジラとイルカの物語～

中部地区科学者懇談会三重県幹事、三重大学大学院生物資源学研究科教授 **吉岡 基**

16:00

閉会挨拶

司会 日本学術会議連携会員、三重大学大学院医学系研究科教授 **村田 真理子**

三重大学 津市栗真町屋町1577

オンライン開催

<https://forms.office.com/r/7tJDHy3yyR>

【参加申込方法】

参加を希望される方は12/2(金)までに左記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。





第22回国際栄養学会議 市民公開講座

人生100年時代に向けた栄養学からの提案： フレイル予防と腸内細菌への注目



主 催：第22回国際栄養学会議組織委員会
日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・
健康生活科学委員会合同 IUNS分科会

日 時：令和4年12月10日（土）13:15～15:15

会 場：東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内三丁目5番1号）

開会の挨拶

加藤 久典

日本学術会議第二部会員、農学委員会・食料科学委員会・健康生活科学委員会合同
IUNS分科会委員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授、
第22回国際栄養学会議組織委員会委員長

司会

武見 ゆかり

女子栄養大学教授、第22回国際栄養学会議組織委員会副委員長

講演1 「健康長寿に向けたフレイル予防とその対策－栄養、運動、社会参加」

新開 省二

女子栄養大学教授

講演2 「腸内細菌と免疫－コロナ禍への対応」

國澤 純

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチン・アジュバント研究センター長

総括・閉会の挨拶

熊谷 日登美

日本学術会議第二部会員、農学委員会・食料科学委員会・健康生活科学委員会合同
IUNS分科会委員長、日本大学生物資源科学部教授

参加費：無料

参加希望の方は、12月2日（金）17時までに、フォームからお申込みください。

<https://form.qooker.jp/Q/ja/icn2022shimin/form/>



問い合わせ：第22回国際栄養学会議 市民公開講座事務局（E-mail: icn2022-shimin@jtbcom.co.jp）



The XX CIGR World Congress 2022

(International Commission of Agricultural and Biosystems Engineering)



市民公開講座「未来の農業」

1. 開催日時：令和4年12月10日（土）13:30～16:00
2. 開催地：京都大学時計台百周年記念館 百周年記念ホール（ハイブリッド開催）
3. 対象：どなたでも参加いただけます。
4. 定員：現地会場先着 300 名、オンライン 100 名
5. プログラム
 - 13:30 開会と開催趣旨 飯田 訓久（京都大学大学院農学研究科 教授）
 - 第一セッション「講演会」
 - 13:40 基調講演
「未来の農業 ― 美味しくて安全な食べ物をロボットが食卓へ置く ―」
野口 伸（北海道大学大学院農学研究院教授、日本農業工学会会長）
 - 14:10 招待講演
「スマート農業による米作り（仮題）」
前野恭慶（株式会社若狭の恵 代表取締役社長）
 - 14:40 招待講演
「スプレッドの植物工場事業から見た未来の農業（仮題）」
糸井 佑樹（株式会社スプレッド ゼネラルマネージャー）
 - 15:10 休憩
 - 15:20 パネルディスカッション
 - 15:55 閉会
6. 申込方法：参加費無料・要事前申込
以下のリンク先にある申込フォームより登録
https://elam.kais.kyoto-u.ac.jp/Public_Lecture/
7. 問い合わせ：メールアドレス：iida(a)elam.kais.kyoto-u.ac.jp
※(a)を@にしてお送りください

主催：日本農業工学会、日本学術会議、国際農業工学会、

協賛：日本生物環境工学会、日本農業気象学会、日本農作業学会、(一社)農業食料工学会、
農業施設学会、(公社)農業農村工学会、生態工学会、農業情報学会、
(一社)農業電化協会

後援：文部科学省、農林水産省、(国研)農業・食料産業技術総合研究機構、内閣府、
外務省、(株)新農林社、日本農業機械工業会

公開
シンポジウム

新型コロナウイルス (COVID-19)・パンデミック、そしてロシアのウクライナ侵攻のなか、「国家」(国民国家)のあり方について問い直しが求められている。国民国家を基礎単位とした世界秩序(ウェストファリア体制)は、この数百年の間に、欧米を中心に全世界に浸透し、近現代世界を規定してきた。しかし、1980年頃から顕著になったグローバル化の進展のなかで、これまでの近代的な世界秩序の限界がさまざま指摘されるようになってきている。地球温暖化問題などが国民国家の利害関係を越えた緊急課題として意識されているのは、その一例である。

こうした状況下で、現在、人類社会を脅かしているパンデミックとウクライナの問題は、グローバル化とはいわば逆の方向に世界の分断(多極化)を促進し、その分断は国民国家内部にも及んでいる。これは、国民国家とグローバル化とが内包していた問題点を今問われるべき課題として顕在化させたものと言える。もちろん、個々の論点について意見はさまざまであるが、いずれにしても、国民国家の問い直しは、国民一人ひとりの生活に関わるものであるという点で、まさに国民的課題なのである。

本シンポジウムでは、現代の学術の知をより合わせることで、この大問題に取り組む手がかりとなる多角的な知見を、国内外で暮らす様々な人々に向けて発信することを試みたい。

PROGRAM

司会:奥田太郎(日本学術会議連携会員、南山大学社会倫理研究所教授)

13:30 開会挨拶

芦名定道(日本学術会議特任連携会員、関西学院大学神学部教授)

13:40 報告1

宗教にとって国家とは何か——その歴史と現在

芦名定道(日本学術会議特任連携会員、関西学院大学神学部教授)

14:00 報告2

「ブラッド・ランド」のナショナリズム——バビ・ヤールからウクライナ史を見る

重田園江(明治大学政治経済学部教授)

14:20 報告3

宗教、言語、領域のはざま、あるいは広がり——アラブ世界の視点から

八木久美子(日本学術会議連携会員、東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

14:40 報告4

天と民の間で——中国における「共在」の哲学とその射程

石井剛(東京大学大学院総合文化研究科教授)

15:15 コメント1

齋藤純一(日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学術院教授)

15:30 コメント2

隠岐さや香(日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)

15:45 ディスカッション

16:50 閉会挨拶

吉岡洋(日本学術会議第25期哲学委員会委員長、京都芸術大学文明哲学研究所教授)

今、なぜ「国家」が問われるのか?

12/10 2022年
(SAT)
13:30 - 17:00
ONLINE

オンライン開催 (Zoomウェビナー・要事前申込)

参加申込フォームへのリンクは学術会議HP
または日本宗教研究諸学会連合HPにも掲載

参加申込はこちら



主催

日本学術会議哲学委員会

共催

日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

お問合せ

日本宗教研究諸学会連合事務局 office.jfssr2008@gmail.com